

黒石市長

高 樋 憲 様

平成 29 年度

黒石市に対する要望事項

黒石商工会議所

平成 29 年度黒石市に対する要望

◆「福 祉」

1. 黒石病院に対する要望について（継続・一部変更）

黒石病院は、津軽地域の中規模総合病院として黒石市および近隣市町村の地域医療を支えております。昨年度まで、予約時間の設定方法の見直しや診察開始時間の通知方法の検討、予約制度未導入診療科に対する導入について要望してきました。それに対し、医師不足への対応や急患の受け入れ状況によって診察が遅れる等の現状を踏まえた回答をいただきました。しかしながら、黒石病院の現状は理解できるものの、予約制度を利用したにも関わらず予約時間と実際の受診時間に開きがあり、場合によっては数時間の待ち時間を要する状況等は、課題解決に向けた継続的な取り組みが必要です。

つきましては、引き続き、予約者の待ち時間の軽減と診察開始時間の通知方法等の改善策について検討いただきますよう要望いたします。

2. 地域医療の充実に係る要望について（継続・一部変更）

昨年度は、黒石市内に 10 以上の診療科がある病院は黒石病院のみであるため、患者が集中し過剰に混雑する原因となっていること、それらの状況を改善するため、個人病院の開業促進と環境整備、高度な医療に関して黒石病院との連携が図れるような医療体制の充実にについて要望しました。それに対し、医師不足の解消策として医師確保対策事業が講じられていること、南黒医師会との連携、登録医制度による高度な医療に関する医療連携について回答いただき、これらの取り組みに期待しているところです。

つきましては、地域医療の充実のためより多くの個人病院が開業できるように、開業予定の個人病院等に対する支援策の充実、医療機関および医療関連産業の集積地構想（医療モール等）についても検討していただきますよう要望いたします。

3. インフルエンザの予防接種費用の助成範囲の拡大について（新規）

乳幼児と高齢者以外の方にも、インフルエンザの発症と重症化を予防するため、接種費用の助成範囲を拡大していただきますよう要望いたします。

◆ 「商工業振興」

4. シャッター街の解消について（継続・一部変更）

平成 27 年度より、黒石市へ要望しているものであるが、単年度での解決が困難であると考えられるため、引き続き要望したい。

黒石市では「黒石市中心商店街空き店舗対策事業補助金」や店舗の改装等に活用できる貸付制度を設け、中心商店街のシャッター街解消に向け支援しているが、貸し手の空き店舗物件が老朽化し、開業するまでに大掛かりな改修が必要であることなど、借り手となる新規出店者を受け入れる環境整備がなされていないという現状もあり、十分な効果を生んでいない。民間金融機関においても空き家の解体・リフォーム費用に活用できる商品を開発している背景もあり、健全な中心商店街の形成が、市全域の活性化に繋がるという認識のもと、下記について対策を講じていただくよう要望いたします。

- ① 「空き家等対策の推進に関する特別措置法」の規定に基づく、市内空き家調査の継続実施と情報を開示すること
- ② 市・商工会議所・商店街団体が連携し、黒石市の環境に合致した先進地事例の研究等を行い、貸し手・借り手双方のニーズをマッチングさせる仕組みの構築
- ③ 中心商店街のシャッター街解消に繋がる各種助成制度の継続実施と予算枠の拡大

5. 黒石市制度融資の拡充について（継続・一部変更）

黒石市制度融資の小口資金特別保証制度資金並びに事業活性化資金特別保証制度については、当該保証料を市が負担していることで地域事業者の資金繰り円滑化とともに事業者においても事業経営安定に寄与しています。しかしながら、融資枠に対する市負担保証料の予算額が不足する場合、必然的に自己負担しなければいけない事業者があり、不公平感が生じています。ついては、隣接する他市同様、市負担保証額を貸出限度総額まで拡大、また利子補給導入について下記の通り要望致します。

- ① 貸付総額に対する全額保証料補給
- ② 利子補給（当初 2 年間は、1. 0 パーセント相当額を市が負担）
- ③ 小口資金特別保証制度資金・事業活性化資金特別保証制度利用条件の緩和、並びに利用推進の P R

6. 地域産業振興・雇用拡大につながる事業について（継続・一部変更）

全国的に少子高齢化による人口減少は黒石市でも進んでおり、比例して中小企業者（雇用者）も減少している。黒石市では、創業5年未満の創業・起業者への支援として「黒石市創業相談ルーム」を開設し支援している。しかし、さらなる地域産業の振興及び雇用の拡大が必要と考えることから、「黒石市創業相談ルーム」の継続実施・充実を図ること、併せて青森県内の他市町村でも取り入れている「地域人づくり事業」を展開して、黒石市の産業振興及び雇用拡大につなげていくことを要望いたします。

7. 成人式の中心市街地での開催について（新規）

黒石市の「成人式」は、平成20年1月まで中心市街地にある「黒石市民文化会館」を会場に開催されていたが、同年4月1日に同館が閉館したことにより山形地区の「津軽伝承工芸館」に会場が移り現在に至っている。

平成25年3月に成人式を中心市街地で開催することを要望した際、市街地の公共施設や学校施設、民間集会施設での開催の可能性を検討・調査した結果、会場の規模や冷暖房、音響設備、安全性等の観点から、市街地に開催可能施設がないと判断したとの回答をいただいている。

郊外型の大型量販店へ顧客が流れ、疲弊した商店街が自力で往時の活力を取り戻すのは非常に困難な状況にあり、今後中心市街地の賑わい創出のための事業は益々重要なものとなる。成人式を開催する場合においても、より多くの方に祝福していただくという意味を加味し、中心市街地での開催を継続して要望いたします。

8. 中心市街地活性化協議会の設置について（新規）

黒石市中心市街地は、過去において近隣市町村から多くの方が買い物にきた場所であり、人の往来が多い場所であった。平成17年までは中心商店街も「大黒」を中心に集客力があり繁栄した。しかし閉店後は郊外への大型店出店も重なり、客足は遠のき閑散となった。

そこで中心市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進し、また市民生活の向上及び地域経済の健全な発展について検討する「中心市街地活性化協議会」の設置を要望いたします。

◆「都市環境」

9. 定住・交流人口増加対策の強化について（継続・一部変更）

黒石市の人口は、1980年（昭和55年）の40,755人（国勢調査）をピークに減少を続け、2016年（平成28年）11月末日現在では、34,600人（住民台帳）となっている。このことは人口減少と少子高齢化が一層進む中、地域経済にマイナス効果をもたらすものであり、これに歯止めをかけることは極めて重要な課題であるとの認識から、定住・交流人口増加対策の一環として次の通り要望いたします。

- ①弘前圏域定住自立圏連携施策を実施し、立地環境や地域の魅力を企業へ向けて情報発信するなどの企業誘致活動を展開されているが、働く場の確保による定住人口の増加と賑わい再生を図るため、既存誘致企業の留置活動の推進と優良企業の誘致活動を継続して実施すること。
- ②若年ファミリー世帯向け住宅の建設や市有地の分譲提供（一定期間居住した場合は無償譲渡）、市営住宅の整備など、住民あるいは移住者が生活拠点を確保し地域に住み続けることができるような、移住・定住促進事業の強化を図ること。

10. 大鰐浪岡線の交通渋滞解消と黒石環状線の整備促進について

（継続・一部変更）

大鰐浪岡線は、大鰐町を起点とし、平川市・黒石市を經由して青森市を結ぶ重要路線である。近年、沿道の商業集積や通過交通の流入などによる交通量増加に伴い、慢性的に交通渋滞となっている。この、交通渋滞を解消するため、更なる拡幅工事と本路線東側バイパス路線を含む黒石環状線（都市計画3・4・7 巾16m 延長7,170m）の整備促進を図ることを要望いたします。またこの要望に対して、昨年財政面及び技術面で困難な状況であるとの回答を受けているが、現在の進捗状況を伺いたく、担当課職員との意見交換の場を設けていただくことを要望いたします。

11. 旧大黒デパートの現状と直近の対応策について（新規）

旧大黒デパートの老朽化、劣化が年々進んでいるのが顕著に見受けられる。市民、近隣住民、通行人等が行き来する場所（中心市街地）に立地している事により、このままだと被害が出る可能性が極めて高い。建物の一部では著しく劣化し既に落下している箇所もある。現在の対応策としては周囲を警戒テープで囲う簡易的な注意喚起看板のみである。また、旧大黒デパート（建物）に保険等を掛けていないと聞いている。万が一被害に遭われる方が出た場合、賠償責任、過失責任さえ問われる可能性が十分にある。また商工会議所会員としても風評被害を受ける可能性は十分ある。

今一度、旧大黒デパートの現状を再確認し、保険加入等の最低限の対策を講じていただくよう要望いたします。

◆「観光振興」

12. 国内外からの観光客に対する受入体制及び誘客の強化について

(継続・一部変更)

県でまとめている「平成27年青森県観光入込客統計」によると、平成27年の青森県の観光入込客数は35,219千人となり、前年比103.7%となっている。また、国土交通省観光庁でまとめている「宿泊旅行統計調査」によると、平成27年の青森県の外国人延べ宿泊者数は109,900人となり、前年比157.7%となっている。国別で見ると、台湾、アメリカ、韓国、中国の順に多くなっている。

このように国内外から観光客が増えてきていることから、観光客の受入体制を充実させ、満足してもらえよう下記の内容について要望します。

- ①黒石よされの開催・運営にあたり、観光客の受入体制（トイレ・駐車場・照明）の不備や関連設備の老朽化、また祭り参加に係る個人の負担増による参加市民の減少など、多くの問題を抱えている。「黒石よされ」が昔の活気を取り戻すよう、黒石を代表する市の祭りであるとの認識のもと、黒石よされ誘客促進へのさらなる支援。
- ②金平成園は現在、春・夏・秋に公開期間をそれぞれ設定しているが、観光客に対してこみせ通りと並ぶ新たな観光の拠点として提案できるよう、公開期間を拡大し可能な限り通年で公開すること。
- ③現在、市外から市内への案内は十分なされているが、一方通行の多い市内の案内が不十分である。また、外国人観光客の増加に対応する英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語などの外国語表示の街路案内板も必要な状況となっている。市内の一方通行をわかりやすく誘導する街路案内板と外国語表示の街路案内板を充実させること。

◆「文化・教育振興」

13. 市民文化会館の早期再開とその活用について （継続・一部変更）

老朽化した舞台・照明設備の改修や管理運営費の負担が困難であるという理由で休館している文化会館は、一部再開されたものの全面会館には至っていない。近年黒石市内の各団体で企画される展示会や発表会が、他の近隣市町村の施設でなければ開催できないという現状があり、市民の交流の場として早期全面再開を要望いたします。

◆「その他」

14. 市民による地域づくり活動に対する支援について （新規）

市民自らが地域のことを考え実践していく環境づくりは、地域における課題解決、活力と魅力あるまちづくりの推進につながります。

つきましては、市民による地域づくり活動に係る経費の支援策として、個人市民税の一部を市民活動等に活用できるよう要望いたします。一定の条件をクリアすることで市民なら誰でも応募できる仕組みづくりが肝となります。

以上、平成29年度黒石市に対する要望事項として要望いたします。

平成29年1月26日

黒石商工会議所

会 頭 新 岡 常 雄